



工高タイムス

北海道旭川工業
高等学校新聞局
〒078-8804
北海道旭川市緑が丘
東4条1丁目1-1
発行人(局長)
村岡 良祐
(工業化学科3年)

工高祭 応援号6

建築科 5年連続の総合優勝

「全学年が一丸となった」

第50回工高祭が7月4～5日に行なわれた。表彰式は5日15時40分から体育館で行なわれ、総合優勝は建築科。学年総合優勝は1年生は建築科、2年生は電子機械科、3年生は建築科だった。建築科が総合優勝するのは令和3年の工高コンを含めて5年連続となる。



クラスの旗を掲げ総合優勝を喜ぶ建築科3年生

工高祭結果

- 総合
1位 建築科
2位 土木科
3位 電子機械科
- 1年クラス企画
1位 電子機械科
2位 土木科・電気科
- 2年クラス企画
1位 電子機械科
2位 工業化学科
3位 建築科
- 3年クラス企画
1位 建築科
2位 工業化学科・土木科
- 1年クラスステージ
1位 建築科
2位 電気科
3位 情報技術科
- 2年クラスステージ
1位 電子機械科
2位 土木科
3位 電気科
- 3年クラスステージ
1位 建築科
2位 土木科
3位 情報技術科
- 垂れ幕
1位 電子機械科
2位 建築科
3位 情報技術科
- 1年総合
1位 建築科
2位 電子機械科
3位 土木科
- 2年総合
1位 電子機械科
2位 土木科
3位 工業化学科
- 3年総合
1位 建築科
2位 土木科
3位 情報技術科

工高祭には気温が30度を越える猛暑の中、大勢の人が来校し、盛況となった。工高祭の準備期間中には、垂れ幕、クラス企画、クラスステージ、模擬店、科展示の5グループに分かれて作業した。1日目に開祭式、クラスステージ発表、科展示やクラス企画のプレオープンが行なわれた。2日目は一般公開日でクラス企画、科展示、模擬店などが行なわれた。総合優勝した建築科3年HR委員長の

生徒会執行部は工高祭の計画を5月から始めた。工高祭直前はテストと重なり特に忙しく、放課後遅くまで作業する日もあった。行事委員長の澤田宙陽君(電2)は「昨年の工高祭を振り返ってスムーズに進行・運営を行なえた。当日は来場者や旭工生から好評をもらい、様々な年代に楽しんでもらえたと感じている。どのクラスも工高祭に向けて全力で作業している様子を見て大成功だったと確信している」と話した。

生徒会執行部 様々な方が楽しめる工夫を 他との連携を強化

工高祭1日目に様々な場面で司

生も頑張ってくれた。建築科全学年が一丸となって取り組んできたので優勝できたのだと思う」と話した。建築科3年はクラス企画とクラスステージでも優勝している。クラス企画では「他のクラスよりも時間をかけたか良かった。休憩時間をなすためメンバーを変えながら通して行なった

会を務めた書記長の高杉涼介君(情3)は「今年度の執行部はメンバーが多く、昨年の工高祭の運営を知っている役員が少ない中ではあったが問題なく進んだ。しかし1日目のプレオープン後の花火では生徒会役員の行動が遅れて会場整理が間に合わず、放送局員に手伝わってもらう結果になってしまった。来年の工高祭では放送局との連携をうまく行なってほしい。生徒会役員で行なうべき作業は放送局や他の活動に支障がないように運営してほしい」と話した。



賞状を受け取る谷口委員長(建3)

機2 来年は科で優勝を

呼びかけし練習重ねる

2学年で総合優勝した電子機械科HR委員長の藤原伶土君は「他の科より人数が少なく大変だった分うれしさが増した。クラス企画では子どもたちが楽しめるような雰囲気づくりをした。来年は電子機械科全体で優勝したい」と話した。クラスステージ担当の須田奏太君は「衣装やフォーメーションにこだわった。自主練習を重ねて練習映像を

ンパーで共有し、改善点を出し合った。楽しむことを一番に考えていた」と話した。

1学年で総合優勝した建築科HR委員長の飯田康太郎君は「クラスステージは練習スケジュールを呼びかけ全員で練習を重ねた。クラス企画や模擬店は放課後も準備作業を行なった。来年は連続優勝をねらっていきたい」と話した。



皆さんは工高祭を楽しんだだろうか。新聞局の3年生は10月にある旭工オリンピックと全道大会が重なるため、今回の工高祭が最後の行事だ。私が楽しんだことを紹介する▼クラス企画では友達と2年生の建築科と土木科に行った。建築科ではターゲットポイントで9回投げることができるとストラックアウトに挑戦した。友達は1ピンゴできていた。私は初めの方でリーチになったが角だったのでうまく入れることができず悔しかった。土木科はキャップ射的で、5回のチャンスがあった。ねらう場所は上下にあり障害物も多いので入れるのが難しかった。の近くにさえキャップが行かなかった▼電気科の後輩から新聞局顧問の細田一輝先生が有志ステージに出ると聞き、先生のギターの弾き語りを聞きに行った。2曲目の途中からだったので最初の曲が聞けなかったのが残念だった。細田先生は部室ではいつも落ち着いていて静かなイメージだったが、ステージ上では印象が違いかっこ良かった。ギターや歌も上手でお客さんもたくさん来ていたのすごくいいと思う▼全日制の有志バンドは最初から聞くことができた。演奏では知っている曲が多く楽しかった。途中から観客が立って曲に合わせて手拍子をするときがあり、一体感がすごく少し圧倒されてしまった。私はライブに行けたことがないので場の雰囲気が新鮮で、またこのような機会があれば行きたいと思った。(土す竹内)

演劇部

アレンジを加えて公演

練習を動画に撮り演技修正

演劇部は視聴覚室で留萌高校演劇部顧問安藤和歌子作「運命よりも恋よりも」を上演した。高校生の主人公がマドンナに恋をする恋愛ものと思いきや、ドタバタな展開のコメディ要素が強い劇だ。タイムトラベルした未来人が主人公の息子であると言ったSFもあり運命の人はすぐそばに

にいたるといふ恋とはなにかがテーマになっている。部長の福井一在君(情3)は「最初は2回公演する予定だったが、部員の体調管理のため1回にした。例年よりも準備期間が短く長いセリフを覚えるのに苦労したが、成功できて良かった。またセリフを噛むことはあったが飛ばす

ことがなかったのが良かった。公演で使った小道具は先輩たちが過去に製作したものと今回製作したパネルを使った。1年生以外は留萌高校でこの劇を見ているので、本家よりもコメディ要素を増やし、役の性別を変えるアレンジをした。練習を動画に撮り、セリフのないときに不自然な動きがなかったのが良かった。



マドンナ(左)に主人公がピストルで撃たれるシーン

垂れ幕

電子機械科が優勝

全体の統一感を出す

垂れ幕の優勝は電子機械科だった。製作時間は約2週間、1〜3年生の9人が担当

した。イラストは漫画風にして、工高祭のキャッチフレーズをモチーフにデザインを決

めた。絵のメインは、上から花火、教室の窓から見た風景、校舎、自転車だ。背景は上から夜、夕日、昼、朝の時間帯を明るさを変えて表現した。製作者代表の矢野秋奈さん(機3)は「普段あまり関わることのない他学年の後輩たちと一緒に活動ができてとて

も楽しめた。背景のグラデーションが難しく、皆で大きな布に塗っていくのが大変だった。その分、実際に遠くから見てみると、良くできていたから達成感が大きく、皆で喜んだ。工夫した点は全体の統一感を出すために黒色と白色で絵を描いた点」と話した。



優勝した電子機械科の垂れ幕

有志ステージ

定時制軽音部

より腕を上げる

全日制から2バンド出場

定時制軽音部の9人は「死ぬこと以外はかすり傷」と「安全第一」の2バンドで演奏を披露した。演奏した曲は「死ぬこと以外はかすり傷」があいみよんの「マリーゴールド」の1曲。「安全第一」はKing Gnuの「飛行艇」とVaundyの「踊り子」、フレデリックの「オドループ」の3曲を演奏した。



定時制軽音部の「安全第一」

ボーカーを担当した中岡ゆづほさん(定時制電3)は「3年間で一番観客が多

く、演奏中に手拍子やうちわ、スマートフォンライトを使ってくれたことがうれしかった。マリーゴールドは新しく入っ

きたならないように修正した。公演後にOBやOGの方におもしろいと言われてうれしかった。今回の演劇で準備を早くすることを学んだので、高文連でも気を付けたい。先輩には時間に余裕を持って準備をしてほしい」と話した。

た4人が演奏したが、4か月でとても上手になった。踊り子は本番2週間前に決めたが、完成までいけて良かった。飛行艇とオドループは早くから練習していたので盛り上げられて良かった。本番でボーカーが2人で歌うところがマイクが入っていないことがあったのが残念だった」と話した。

来年に向けて「2人が卒業して抜けるので、次までに腕を上げ、今年よりも盛り上げたい」と語った。

巨大オブジェ

製作途中で協議

作業準備の徹底を

巨大オブジェの本体の入場ゲートは生徒会の担当者2人と3年生1人、2年生1人、1年生36人の計40人。6月23日に製作を始め、工高祭一般公開の7月5日8時に完成した。

製作は主に放課後と工高祭の準備期間中に同窓会館「朝日子の館」の1階で行なった。巨大オブジェには主



入場ゲートをくぐって来場する親子(右)

にダンボールを使い、強度を上げるために使用した木材は生徒会の物品庫にあったものを再利用した。工夫した点は未完成で終わらせないために製作途中で何度も先生と話し合い、難しいところを省いて完成させた点だ。

生徒会担当者の澤田宙陽君(電2)は「忙しの中ダンボール集めに協力してくれた店の方々に感謝している。製作に協力してくれた先生方や生徒の皆さんのおかげで完成した。反省点はもっと作業準備を徹底し、見直しを持てるように完成後の作品のイメージを事前にメンバーと共有すべきだった」と話した。

情報技術科3年のさくさくバンド



は有志ステージでの演奏は初めてだったが、バンドに興味があったので参加したという。「来場者がたくさん来てくれたのがうれしかった。演奏中に客が手拍子で盛り上げてくれたので、自分たちがしっかり楽しめたのが良かった。メンバーとの時間の都合が悪く一緒に練習できる時間があまり取れなかったのが苦労した」と話した。

情報技術科2年生の5人で組んだ「404 Bumflap」がヨルシカの「ただ君に晴れ」、あいみよんの「マリーゴールド」SHISHAMOの「明日も」の3曲を演奏した。